

第 7 号

県央・湘南の 環境と共生する都市づくり NEWS

2003. 2

● みんなで考え、行動する環境共生の都市づくり通信 ●



平塚市馬入ふれあい公園の多目的アリーナ（完成予想図）

目 次

- 2～3P 県民フォーラム「ツインシティのまちづくりにおける県民・企業・行政のかかわり」
- 4～5P こういうまちに住みたい～人と自然に優しいまち～
- 6P コラム「新駅に期待する」
- 7P Q&Aコーナー／新幹線豆知識
- 8P お知らせ／神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会

〔神奈川県、平塚市、藤沢市、茅ヶ崎市、相模原市、厚木市、大和市、伊勢原市、海老名市、座間市、綾瀬市、厚田町、県市長会、県町村会、県商工会議所連合会、県商工会連合会〕

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会では、新幹線新駅を誘致する寒川町倉見地区と相模川をはさんだ対岸の平塚側地区とを新たな道路橋でつなぎ、両地区を一体の都市として整備し、全国との交流連携の窓口（ゲート）となる、環境共生モデル都市「ツインシティ」の都市づくりを進めています。

「ツインシティ」の都市づくりをはじめ、県央・湘南都市圏全体で環境と共生する取組みを進め、県民にとっても鉄道事業者にとっても魅力ある都市をつくり上げていくことで、東海道新幹線新駅の一日も早い実現につなげていきたいと考えています。

同盟会では、1月26日に寒川総合体育館で「ツインシティのまちづくりにおける県民、企業、行政のかかわり」について、2月9日に海老名市役所で「新幹線新駅と地域振興」について、皆さんと考える県民フォーラムを開催しました。

今回の特集では、1月26日に寒川総合体育館で開催したフォーラムの模様をご紹介します。

特集 県民フォーラム 「ツインシティのまちづくりにおける県民・企業・行政のかかわり」

当日は、立命館大学 村橋教授による基調講話の後、まちづくりにご活躍されている、竹谷氏、鞠子氏、大戸氏をパネリストとしてお招きし、パネルディスカッションや参加者の皆さんを交えたフロア討議を通して有意義な意見交換を行うことができました。

基調講話「まちづくりはおもしろい」

立命館大学教授 村橋 正武

あなたが主役のまちづくり

これからのまちづくりは、県民、企業、行政の三者がそれぞれの役割を持ちながら、お互いが手を携えて進めていくことが大切です。

行政は、交通アクセスや良好な住環境等、地域がもっている外部条件を整備しながら、住民や企業のまちづくりを支援する役割をもち、また、まちの活性化のための地域イメージ向上を目指した取組みも求められています。

しかし、行政や学識経験者などは所詮「助っ人」でしかありません。

まちづくりは、そこに住む住民や企業の皆さんが、共通の目標となる都市像を目指し、自らの意欲、決意によって進めていかなければいけません。

まちづくりの進め方

まちづくりには、「ヒト、モノ、カネ」の他に、「ライバル」も必要です。良い意味で競争の関係を持つことにより、魅力的なまちをつくることが可能となります。

さらに、「情報を共有化」していくことで、信頼関係も築かれ、まちづくりの合意形成が早まります。

まちづくりに取り組むことは、皆さんにとって楽しみや喜びではありますが、同時に、金銭的、物質的、精神的痛みを伴います。

これらの困難を乗り越えることによってこそ、末永く快適に暮らせる夢のあるまちができ、次世代に継承できる魅力的な財産が生まれるのです。



村橋 正武（むらはし まさたけ）

立命館大学 理工学部教授
京都大学大学院工学研究科修了。
建設省（現国土交通省）都市局特
定市街地整備対策官、東京都総合
計画部長などを経て現職。著書に
「国土の構造と地域整備」など。

パネルディスカッション

まちづくりは住民総ぐるみで

横浜市まちづくりコーディネーター 竹谷 康生 (たけや やすお)

まちづくりは、みんなが思い思いにやってもうまくいかず、最初にどんなまちを作りたいかをみんなでディスカッションすることで、まち全体の価値が上がると思います。

また、まちづくりを進めていくには、賛成や反対の姿勢がはっきりしている一部の関心層の方々だけを対象にせず、あまり関心を示さない多くの方々も交えて問題を解決していくことが、手戻りもなく、最後には最もうまくいくと思います。



早い段階での情報公開を

(有) 大戸まちづくり研究所 主宰 大戸 徹 (おおと とおる)

まちづくりをしようとする、一部の人が集まってリードする体制を作らざるを得ないのが現実です。

一部の人がリードせざるを得ないのであれば、そこで一番大事なことは「情報の公開」です。しかも、早い段階での公開が大切です。

インターネットやメールが発達してきていますが、手作りの広報誌を全戸に配るというこれまでの方法も依然として有効です。

その際大切なことは、今何を議論しているのかを必ず伝えること、それに対して意見を言えるような機会、仕組みを用意することです。

● まとめ

パネルディスカッションの後、フロア討議が行われ、最後に村橋先生より、「まちづくりは、皆さんが議論をする場をなるべく多くつくり、また、情報の共有化を図ることでお互いの信頼関係を深めながら進めてください。」とまとめていただきました。

倉見の景観を生かして

ビナウォーク管理センター所長 鞠子 篤也 (まりこ とくや)

「ビナウォーク」には歩いて楽しい道や広場がたくさんあり、多くのお客様が大変伸びやかな時間を楽しんで下さっています。

都市公園が中心にあるという特徴を生かすために注意深くデザインしており、その結果、公園を中心に大きな賑わいが生まれました。

寒川町倉見においては、素晴らしい自然の景観がありますので、その特徴を生かすことで、そこにしかない魅力あるまちづくりが可能になるのではないかと思います。

※ ビナウォーク

昨年4月海老名駅前にオープンした、公園を囲んだ商業・アミューズメントの複合型集客施設。



三者の信頼関係を築き上げて

神奈川県県土整備部参事 加藤 国夫 (かとう くにお)

都市計画法も変わり、住民発意型のまちづくりが進めやすい仕組みが徐々に整理されつつありますが、日が浅くまだ手法が確立されているわけではありません。

これから一緒に新駅の実現という大きな目的に向かってまちづくりを進めていくには、時間がかかっても、県民、企業、行政の三者が勉強会や話し合いを通じて、お互いに信頼関係を築き上げていくことが大切です。

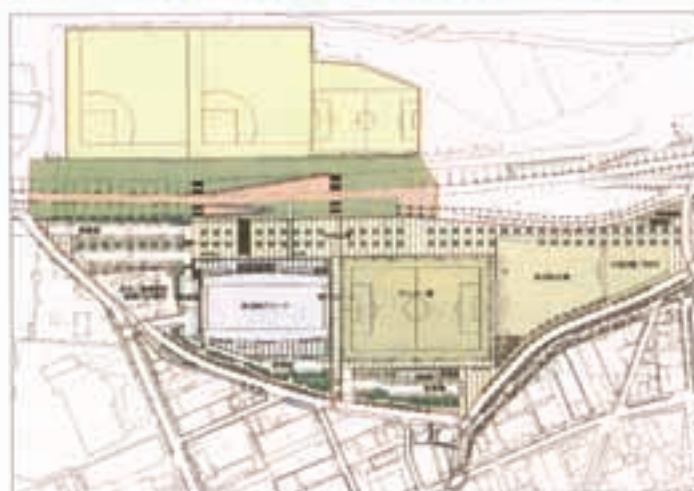
フォーラムの詳しい内容は同盟会のホームページでご紹介します。(2月末～)

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/shin-eki/>

こういうまちに住みたい～人と自然に優しいまち～

このコーナーでは、環境と共生するまちづくりの事例を紹介します。

環境共生都市づくり事業認証第1号 ～平塚市馬入ふれあい公園～



馬入ふれあい公園（計画平面図）

国道1号馬入橋上流の相模川右岸で進めている馬入ふれあい公園整備事業が、昨年11月、県の環境共生都市づくり事業の第1号に認証されました。この公園は、相模川の堤防を挟んで、市街地側（堤内地）と河川側（堤外地）とを一体的に運動公園として整備を進めています。（平成16年度完成予定）

相模川の豊かな自然環境の中で、スポーツやレクリエーションを楽しみ、憩える空間づくりを行うもので、環境共生の都市づくりや市民交流の場、スポーツ・レジャーの拠点、水辺のふれあい拠点等の整備を基本方針として掲げています。

1. 自然環境を生かした公園づくり

自然を生かし、公園内外の連続性のある緑化を図り、また水環境にも配慮しています。

具体的には、相模川特有の南北方向の川風に配慮し、公園施設とともに中央広場の高木（メタセコイヤ）を南北方向に2列配置しています。

広場や園路の樹木については、地域の特性からクスノキやタブノキ等潮風に強い樹種、常緑樹や落葉樹、季節を感じることができる樹木のほか、越冬のために飛来する小鳥（ツグミ、アカハラなど）のえさとなる実のなる樹種（クロガネモチ等）等を植栽するなど、地域性や自然生態系に配慮しています。

さらに、中央広場には透水性コンクリート舗装、外周囲路や駐車場に透水性アスファルト舗装を敷設し、水循環にも配慮しています。



シンボルとなるメタセコイヤの並木



ツグミ



クロガネモチ

2. 環境負荷を低減する都市づくり

自然エネルギーの導入をはじめ、省エネルギーへの配慮や水の効率的な利用を図っています。

具体的には、多目的アリーナへの太陽光発電、自然採光（壁面のガラス化）、熱線センサ付自動スイッチや照度センサ制御などの導入、トイレの洗浄や樹木の散水への雨水利用、広場や園路への太陽光発電公園灯の設置、ベンチやインターロッキングへのリサイクル材の利用等を行っています。



太陽光発電パネル



リサイクル材を利用したベンチ



リサイクル材を利用したインターロッキング

3. 新たな都市防災の拠点づくり

公園全体が地震災害時の避難場所、救援活動の拠点となるよう防災機能の充実を図っています。

具体的には、中央広場や多目的広場、サッカー場等オープンスペースを確保するとともに、外周に防火樹林帯としての機能を持つ高中木の植栽帯を配置しています。また、多目的アリーナに防災備蓄倉庫の設置、災害時にトイレとして利用できるベンチや太陽光発電公園灯の広場への設置等を行っています。



多目的広場



災害時にトイレとして利用できるベンチ

（お問い合わせは、平塚市都市整備部みどり公園課 電話 0463-23-1111）

環境共生都市づくり事業について

県では、県央・湘南都市圏のまちづくり事業において、「自然が有する機能や魅力」、「環境への負荷の低減」、「環境とのバランスのとれた交通計画」及び「地域アメニティの創出」に配慮した環境共生の取り組みを促進していくために、「県央・湘南都市圏環境共生モデル都市づくり推進要綱」を平成14年1月1日に制定し、同年4月1日から施行しています。

今回ご紹介した「馬入ふれあい公園」は、この推進要綱により協議を行い、平塚市長と知事の間で協定を締結し、環境共生都市づくり事業第1号として認証したものです。

コラム

新駅に期待する

このコーナーでは、県央・湘南都市圏の首長や業界団体の代表者の方々に新駅等への期待をお話いただきます。



宮川中央公園から大山・丹沢方面を望む

寒川町倉見地区が平成9年11月に神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会臨時総会において、同盟会会員の全会一致により新幹線新駅誘致地区の決定を受け、町民とともに喜んだことが昨日のここのように思い出されます。

これからのまちづくりは、少子・高齢社会の進行による都市間競争が想定されており、そのなかであって、新幹線新駅の早期実現と環境と共生するツインシティ倉見地区のまちづくりは、寒川町の発展にとってまたとないチャンスと考えております。

町では、町の総合計画ならびに都市計画マスタープランの改定を行い、地域の皆様と協議を重ね、「ツインシティ倉見地区まちづくり基本計画」を昨年度末に策定したところです。

新幹線の新駅は、単に広域の高速移動にとどまらず、相模線の複線化を促進させるなど地域住民の皆様の日常生活における利便性の向上や環境と共生するまち「優しさと輝きとうるおいのある湘南さむかわ」として将来にわたり寒川町に住み続け、また、移り住んでいただけるようなまちづくりには欠かせないものと考えております。

県央・湘南地域の南のゲートとなる、また、寒川町の将来と地域住民の生活環境の向上をめざして、新幹線を活かした広域交流と連携のまちづくりの推進に努力し、一日も早く新幹線新駅の実現を願うものです。

今後とも、関係各位のご指導・ご協力をお願い申し上げます。



町の木「もくせい」



町の花「すいせん」

寒川町 山田 文夫 町長



〈プロフィール〉

やまだ ふみお
昭和9年生まれ。
昭和28年に寒川町に入庁し、総務部長、企画部長などを歴任し、平成4年より7年間助役を務める。
平成11年、第20代町長に選ばれ、現在に至る。

Q&A コーナー

このコーナーでは、環境と共生する都市づくりや新幹線新駅の誘致などについて、皆さんからのご質問をお受けしています。

＊「県央・湘南都市圏整備構想」ホットライン（裏面参照）＊までどうぞ。

Q

鉄道は、自動車や航空機と比較して地球温暖化の原因となるCO₂の排出量が少ないと聞きますが、どうでしょうか。

A

1人を1km運ぶときに発生するCO₂量を比較すると、鉄道はエネルギー効率が高い（図1）ことに加え、化石燃料以外のエネルギーを活用できる電気を主な動力源とするため、航空の約1/6、自家用乗用車の約1/9と、CO₂排出量の割合が少ない輸送システムです。（図2）

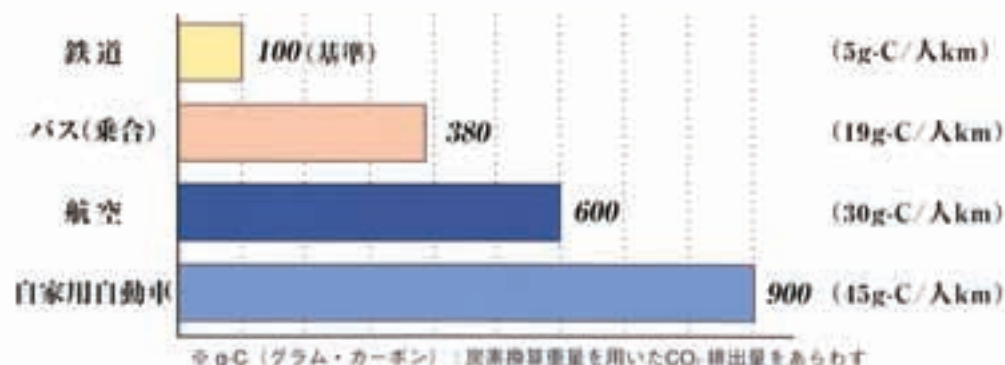
図1：1人を1km運ぶときに消費するエネルギー量の比較（2000年度）

（出典：国土交通省交通関係エネルギー要覧）



図2：1人を1km運ぶときに排出するCO₂量の比較

（出典：地球温暖化問題への国内対策に関する関係審議会合同会議資料）



新幹線豆知識

～黄色い新幹線を見たことがありますか？～

新幹線電気軌道総合試験車「ドクターイエロー」は、新幹線の高速運転を支える様々な設備の状況を走りながら測定する、言わば「新幹線のお医者さん」です。

約10日に1度の周期で、実際の線路を営業列車と同じ速度で走行し、電気設備や軌道設備などの状態を計測。ここで得られたデータは、日々実施している各設備のメンテナンスの基礎資料として活用されています。

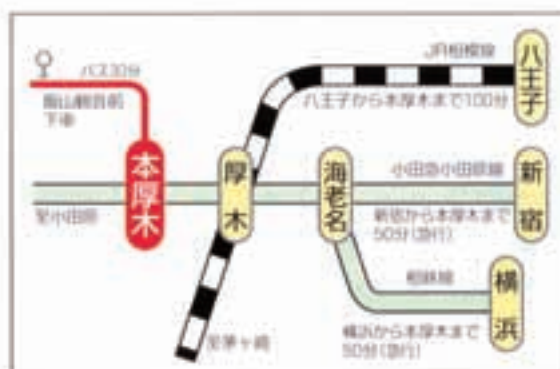


（協力：JR東海）

「あつぎ飯山桜まつり」(厚木市)のご紹介

今年で39回目を迎える「あつぎ飯山桜まつり」を開催します。
飯山白山森林公園内の桜「ソメイヨシノ」がこの時期見ごろになります。ぜひお越しください。

- と き 平成15年4月1日(火)～6日(日)
- 場 所 飯山白山森林公園
- 交 通 小田急線本厚木駅北口下車。5番乗場よりバス宮ヶ瀬行き、上煤ヶ谷行き、上飯山行き飯山観音前下車。
- 問合せ 厚木市商業観光課 Tel.046-225-2820



神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会について

「神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会(平成8年5月発足)」では、平成9年11月、新駅誘致地区を寒川町倉見地区に決定し、新駅誘致活動を行っています。

また、同盟会を構成する市町周辺の市町村などを加えて、「まちづくり検討協議会」を設置し、ツインシティをはじめ県央・湘南都市圏における環境と共生する都市づくりの検討・協議を進めています。

今回の特集では、同盟会主催による寒川総合体育館でのフォーラムの様態をお伝えしましたが、「新幹線新駅と地域振興」をテーマに、2月9日 海老名市役所で開催した県民フォーラムの様態につきましても、下記のホームページでご覧になれます。(2月末～)



フォーラム(海老名会場)での様態

期成同盟会のホームページ

<http://www.pref.kanagawa.jp/osirase/kendosomu/shin-eki/>

発行元

神奈川県東海道新幹線新駅設置促進期成同盟会(事務局:神奈川県県土整備部県土整備総務室)

〒231-8588 横浜市中区日本大通1

電話 045-210-6036 [「県央・湘南都市圏整備構想」ホットライン]

ファックス 045-210-8879

E-mail kankyou-kyousei.50@pref.kanagawa.jp

発行回数 年3回

R100
環境と共生のまちづくりを推進する